

京大 広報

KYOTO UNIVERSITY

2026.1
No. 785
号 外

北川 進 理事・副学長、 特別教授、 ノーベル化学賞授賞式



© Nobel Prize Outreach. Photo: Clément Morin

ノーベル賞授賞式でスウェーデン王国カール16世グスタフ国王からメダルとディプロマを受け取る北川理事・副学長、特別教授

目次

- 北川 進 理事・副学長、高等研究院特別教授が
ノーベル賞授賞式に出席 6244
- 共に創り上げた「空間」の化学-ノーベル賞授賞
式を終えて 6245
理事・副学長、高等研究院特別教授 北川 進
- 北川 進 先生のノーベル化学賞受賞を祝して 6246
総長 湊 長博
- 大停電からの逆転劇 6247
理学研究科教授 北川 宏
- ノーベル化学賞受賞発表以降の北川 進 理事・
副学長、高等研究院特別教授関連の動き 6248



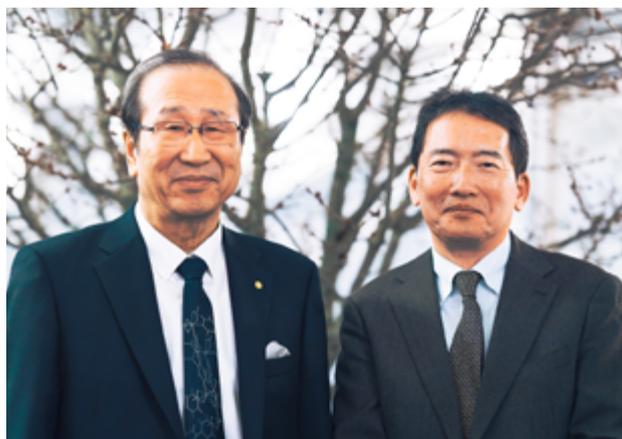
京都大学

所属・職名については、行事開催時点のものです。

大停電からの逆転劇

理学研究科教授 北川 宏

このたび、北川進先生がノーベル化学賞を受賞されましたことを心よりお祝い申し上げます。専門分野が同じ錯体化学であることから、私が博士課程1年の頃から学会などで存じ上げていました。当時、北川先生は30代半ばで、留学先の米国から帰国されたばかりでした。北川先生は、新進気鋭の研究者として既に他を圧倒するような存在でした。名字が同じ「北川」であることから、研究会などで親しくいただき、公私にわたってさまざまなアドバイスをいただきました。



在スウェーデン日本国大使館主催レセプション会場にて
(左 北川理事・副学長、特別教授、右 北川教授) (12月9日)

2003年の夏、カナダ・オタワで開催されたIUPAC (国際純正・応用化学連合) 国際会議に北川先生と一緒しました。当時、北川先生は51歳、私は41歳で九州大学に教授として異動した年でした。北川先生は、JST (国立研究開発法人科学技術振興機構) の小規模ネットワーク型プログラムCRESTの面接選考会のために一足先に帰国することになりましたが、その日、北米では29時間に及ぶ大停電が発生しました。空港まで行かれたものの、飛行機はキャンセル。再予約を待つ人の長蛇の列に並び、ようやく予約できたものの、市内に戻るタクシーにノートパソコンを置き忘れてしまいました(後で見つかりました)。すでにチェックアウト済みだったため、私の部屋で一緒することになりました。エレベーターも止まっており、あいにく高層階の部屋だったため、上り下りは階段を使いました。買い出しに行きましたが、コンビニには水しかなく、キッチンカーでホットドッグを買ってなんとかしのぎました。極めてポジティブな北川先生も、さすがにその日は相当落ち込んでおられましたが、翌朝には持ち前の前向きさを取り戻されていました。

面接選考会を欠席したためCRESTは不採択となりましたが、これが転機となりました。翌年、大規模ネットワーク型プロジェクトである文部科学省特定領域研究「配位空間の化学」を領域代表として立ち上げられ、化学だけでなく物理学、最先端計測科学、理論科学などの他領域の多くの研究者も巻き込み、北川先生の研究は世界中に広がっていきました。大停電がなかったらCRESTに採択され、小規模なグループ研究に留まり、今回の受賞に繋がらなかったかもしれません。まさに「大停電のおかげ」で、「幸運は準備された心に宿る」と言える逆転だったと思います。

北川先生のご研究のますますのご発展と学術行政へのご貢献を心よりお祈り申し上げます。

[目次に戻る ↗](#)